

平成28年度 事業報告書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

学校法人 奈良学園

＜ 目 次 ＞

I. はじめに	P. 1
II. 法人の概要	P. 2～5
1. 沿革	(P. 2)
2. 法人本部及び設置する学校の所在地	(P. 2)
3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況	(P. 3)
4. 役員の状況	(P. 4)
5. 評議員の状況	(P. 4)
6. 専任教職員の状況	(P. 5)
7. 土地及び建物	(P. 5)
8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）	(P. 5)
III. 事業の概要	P. 6～25
1. ハイライト	(P. 6～11)
(1) 奈良学園大学（奈良産業大学） －実習の達成と人間力の育成－	(P. 6)
(2) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 －学修成果：子育て支援広場アンケート調査より－	(P. 7)
(3) 奈良文化高等学校 －きららガール活躍－ ～地域で、そして世界へ～	(P. 8～9)
(4) 奈良学園中学校・高等学校 －SSH校として活動を充実－	(P. 9)
(5) 奈良学園幼稚園・奈良学園小学校、 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 －繋がる学びと教育力－	(P. 10)
(6) 奈良文化幼稚園 －「わんぱくの森」プロジェクト～遊びをとおして元気！未来行－	(P. 11)
2. 設置校の主な事業と進捗状況	(P. 11～23)
(1) 奈良学園大学	(P. 11～15)
(2) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	(P. 15～18)
(3) 奈良文化高等学校	(P. 19～21)
(4) 奈良学園中学校・高等学校	(P. 21～22)
(5) 奈良学園幼稚園・奈良学園小学校、 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校	(P. 22～24)
(6) 奈良文化幼稚園	(P. 24～25)
IV. 財務の概要	P. 26～31
1. 最近の投資と財務の状況	(P. 26)
2. 平成28年度決算の概要	(P. 27～31)
(1) 資金収支の概要	(P. 27)
(2) 消費収支の概要	(P. 28)
(3) 貸借対照表の概要	(P. 29)
(4) 平成28年度財産目録（概要）	(P. 30)
(5) 監査報告書	(P. 31)

[奈良学園大学 教育研究活動等の状況](#) （大学のページに移動します）

[奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 教育研究活動等の状況](#) （短期大学部のページに移動します）

I. はじめに

本学園では、経営環境が厳しさを増す中で、平成 21 年度には日本私立学校振興・共済事業団の指導と助言を受けつつ、抜本的な経営改善を行う目的で平成 22 年度から 5 か年間にわたる「経営改善計画」を策定した。平成 22 年度に入って、文部科学省による学校法人運営調査の対象法人となり、実地調査を受けた結果、平成 23 年度から 27 年度までを対象年度とする改訂版「経営改善計画」を策定するに至った。

平成 23 年度以降、この改訂された「経営改善計画」のもと、「教学改革計画」、「学生・生徒・児童・園児募集対策と学納金計画」、「人事政策と人件費の削減計画」、「経費削減計画」、「施設等整備計画」等の各改善・改革に取り組んできた。その結果、平成 26 年度に奈良産業大学の名称を奈良学園大学に変更すること、人間教育学部人間教育学科、現代社会学部現代社会学科並びに人間社会学科、保健医療学部看護学科の 3 学部 4 学科を設置申請することを決定した。なお、このことから、平成 26 年度から既存のビジネス学部ビジネス学科及び情報学部情報学科の学生募集を停止することとした。また、三郷キャンパスに人間教育学部と現代社会学部を配置することとし、保健医療学部は登美ヶ丘キャンパスを利用することを決めた。これに関連して、登美ヶ丘キャンパスにある奈良文化女子短期大学の名称を、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部に名称変更し、総合学園としてのブランド力向上に資することとした。さらに、平成 25 年 1 月 7 日からは前述の委員会及び室を「(仮称) 奈良学園大学設置準備委員会」、「同設置準備室」に改編し、設置に向けた業務を強力に推し進めていくこととした。

平成 25 年 10 月、人間教育学部と保健医療学部の 2 学部が認可され、2 学部体制スタートとなった。そのため、「学校法人奈良学園高等教育整備拡充委員会」を設置し、収支の均衡を前提とした中長期的な財政計画を多角的に策定・実行し、経営基盤の安定確保に取り組むこととした。

平成 27 年度は第 1 期の「経営改善計画」は最終年度を迎えたが、第 2 期の「経営改善計画（平成 28 年度～32 年度）」を策定するに際し高等教育・初等中等教育共に、各校が認識する教学改革や募集対策等の諸課題に取り組んだ。特に高等教育では、整備拡充委員会にて「高等教育の整備拡充に関する答申書」がまとめられた。これを受け平成 27 年 7 月に大学改革委員会と 3 つの WG が設置され、文部科学省へ事務相談に赴くなどの申請業務を開始した。平成 28 年度は申請業務を進める中で、大学では 4 月に大学改革委員会を「学部・学科設置委員会」に改編し、「学部学科設置準備室」も設置された。平成 29 年 3 月には大学院看護研究科申請と人間教育学部の定員増の届出が受理され、来春（平成 30 年 4 月）のスタートに向けて本格的準備が進められることとなった。

Ⅱ. 法人の概要

1. 沿革

昭和 36. 3	学校法人中和学園設置認可。
昭和 40. 1	奈良文化女子短期大学教養科及び奈良文化女子短期大学付属高等学校の設置認可。 教養科入学定員 100 人、付属高等学校入学定員 100 人、4 月 1 日開校。
昭和 42. 1	奈良文化女子短期大学付属幼稚園の設置認可。 総定員 180 人、4 月 1 日開園。
昭和 45. 4	学校法人奈良学園に名称変更を行う。
昭和 54. 1	奈良学園中学校、奈良学園高等学校設置認可。 中学校入学定員 90 人、高等学校入学定員 90 人、4 月 1 日開校。
昭和 58.12	奈良産業大学の設置認可。 経済学部経済学科入学定員 120 人、経営学科 120 人、昭和 59 年 4 月 1 日に開学。
平成 19. 4	奈良文化女子短期大学付属高等学校を奈良文化高等学校に校名変更。
平成 19. 6	法人本部を奈良県大和高田市東中 127 番地から奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目 15 番 1 号に移転。
平成 20. 3	奈良学園幼稚園、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校設置認可。 幼稚園総定員 155 人、4 月 1 日開園。 小学校入学定員 120 人、中学校入学定員 200 人、4 月 1 日開校。
平成 21. 3	奈良学園登美ヶ丘高等学校設置認可。 入学定員 225 人、4 月 1 日開校。
平成 26. 4	奈良産業大学を奈良学園大学に名称変更し、人間教育学部人間教育学科入学定員 120 人、保健医療学部看護学科入学定員 80 人を設置。 奈良文化女子短期大学を奈良学園大学奈良文化女子短期大学部に名称変更。 奈良文化女子短期大学付属幼稚園を奈良文化幼稚園に名称変更。

2. 法人本部及び設置する学校の所在地

平成 29 年 3 月 31 日現在

学 校 名	住 所
法人本部	〒631-0003 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園大学 (奈良産業大学)	※1 〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北 3-12-1 ※2 〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	〒631-8523 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化高等学校	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良学園高等学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園中学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園登美ヶ丘高等学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園登美ヶ丘中学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園小学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園幼稚園	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化幼稚園	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127

注)※1 三郷キャンパス (人間教育学部、情報学部、ビジネス学部)

※2 登美ヶ丘キャンパス (保健医療学部)

3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況

平成 28 年 5 月 1 日現在

学校名	学部等	入学定員	収容定員	現員	備考
奈良学園大学 (奈良産業大学)	人間教育学部	120	360	333	H26.4 設置
	保健医療学部	80	240	259	H26.4 設置
	情報学部	200	200	29	H26.4 募集停止
	ビジネス学部	200	200	77	H26.4 募集停止
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	幼児教育学科	100	200	261	
奈良文化高等学校	全日制課程 普通科	110 ^{※1}	330 ^{※2}	307	
	全日制課程 衛生看護科	80	240	245	
	全日制課程 衛生看護専攻科	80	160	146	
奈良学園高等学校	全日制課程 普通科	200 ^{※3}	600 ^{※4}	599	
奈良学園中学校		160 ^{※5}	480 ^{※6}	474	
奈良学園登美ヶ丘高等学校	全日制課程 普通科	120 ^{※7}	360 ^{※8}	325	
奈良学園登美ヶ丘中学校		160 ^{※9}	400 ^{※10}	417	
奈良学園小学校		90 ^{※11}	630 ^{※12}	417	
奈良学園幼稚園		40 ^{※13}	155 ^{※14}	121	
奈良文化幼稚園		60 ^{※14}	170 ^{※15}	205	

※1 募集人数。入学定員は 120 人。 ※2 校則上の収容定員は 360 人。

※3 募集人数。入学定員は 240 人。 ※4 校則上の収容定員は 720 人。

※5 募集人数。入学定員は 220 人。 ※6 校則上の収容定員は 660 人。

※7 募集人数。入学定員は 225 人。 ※8 校則上の収容定員は 675 人。

※9 募集人数。入学定員は 200 人。 ※10 校則上の収容定員は 600 人。

※11 募集人数。入学定員は 120 人。 ※12 校則上の収容定員は 720 人。

※13 募集人数。27 年度までは 35 人。 ※14 園則上の収容定員として 155 人。

※15 募集人数。入学定員は 75 人。 ※16 園則上の収容定員は 255 人。

4. 役員の状況（平成29年3月31日現在）

※理事定数8人以上12人以内【現員12人】 監事定数2人又は3人【現員2人】

理事長（常勤）	西川 彭	学園長
理事（常勤）	梶田 叡一	学校長の互選による
理事（常勤）	吉田 明史	学校長の互選による
理事（常勤）	山田 勝美	学校長の互選による
理事（常勤）	松尾 孝司	学校長の互選による
理事（常勤）	古川 謙二	学校長の互選による
理事（常勤）	西辻 正副	評議員会の選任による
理事（常勤）	青木 徳康	評議員会の選任による
理事（常勤）	上嶋 丈一	評議員会の選任による
理事（非常勤）	甘利 治夫	学識経験者
理事（非常勤）	中本 勝	学識経験者
理事（非常勤）	辻 毅一郎	学識経験者
監事（常勤）	松田 親典	
監事（非常勤）	村田 智之	

注) 平成29年3月31日退任

理事（常勤） 梶田 叡一

平成29年4月1日就任

理事（常勤） 辻 毅一郎（学校長の互選による）

（平成29年4月1日奈良学園大学学長に就任）

5. 評議員の状況（平成29年3月31日現在）

※評議員定数21人以上25人以内【現員24人】

法人職員	西辻正副 仁後公幸 上田全克 北條哲夫 上原朋之 菅田康裕 上嶋丈一 角田道代 青木徳康	学園卒業生	川戸昭人 光安寿一 池田順子 櫻井秀子 小鶴和美 山口小代美 上杉圭史	学識経験者	朝廣佳子 高橋裕子 政池 明 阪本道隆 田村雅宥 西川 彭 菊池 攻 新納京子
------	--	-------	---	-------	--

注) 評議員1人から平成29年3月18日付けの辞任願いが提出されたため、平成29年3月31日現在では、1人選任中であつた。

6. 専任教職員の状況（平成28年5月1日現在）

※学長・副学長・校長・園長・副校長・教頭は除く

校名	教授	准教授	講師 (大学・短大)	助教	助手	教諭	助教諭	常勤講師 (幼・小・中・高)	職員	計
奈良学園大学 (奈良産業大学)	46	15	15	7	8	0	0	0	54	145
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	4	4	3	0	0	0	0	0	10	21
奈良文化高等学校	0	0	0	0	0	41	0	4	11	56
奈良学園高等学校	0	0	0	0	0	33	0	0	3	36
奈良学園中学校	0	0	0	0	0	26	0	1	2	29
奈良学園登美ヶ丘高等学校	0	0	0	0	0	22	0	1	2	25
奈良学園登美ヶ丘中学校	0	0	0	0	0	24	0	0	1	25
奈良学園小学校	0	0	0	0	0	30	0	1	1	32
奈良学園幼稚園	0	0	0	0	0	7	0	3	1	11
奈良文化幼稚園	0	0	0	0	0	7	0	2	1	10
法人部門	0	0	0	0	0	0	0	0	23	23
計	50	19	18	7	8	190	0	12	109	413

7. 土地及び建物（平成28年5月1日現在。含、志賀直哉旧居）

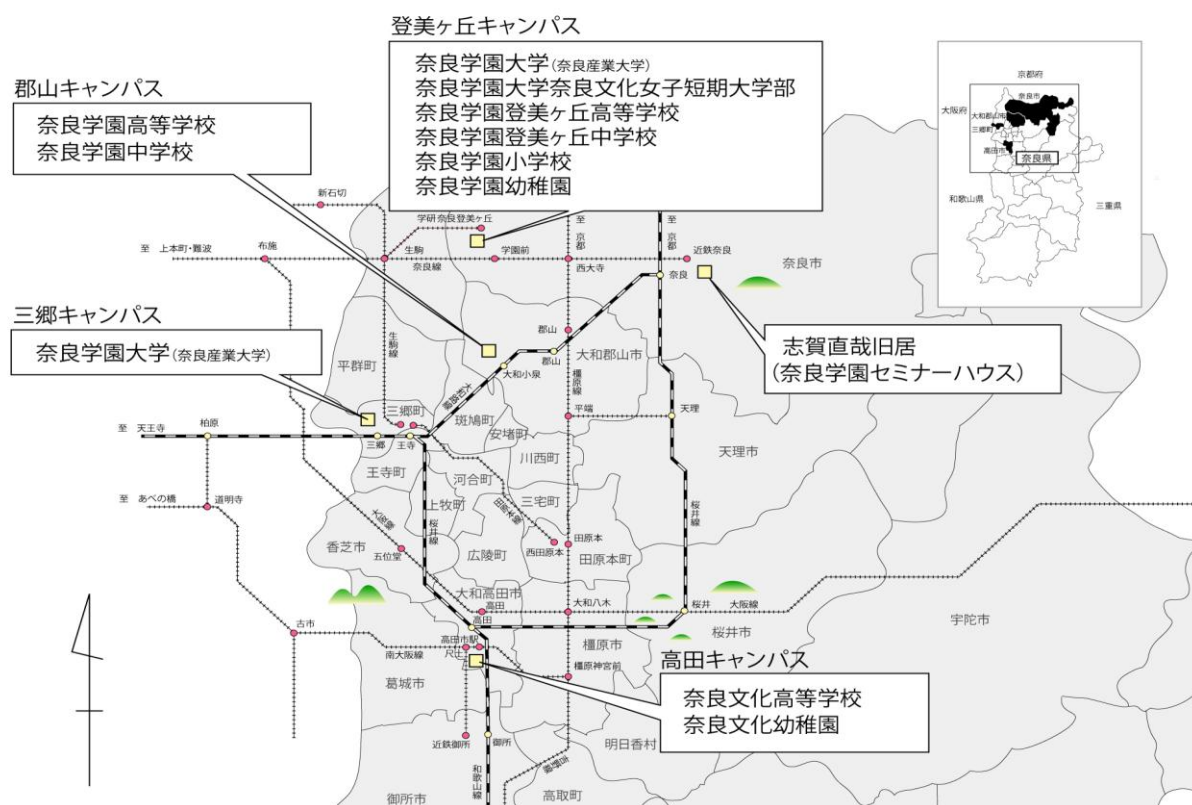
【キャンパス毎の土地面積】

三郷キャンパス (奈良学園大学 (奈良産業大学))	203,745 m ²
高田キャンパス (奈良文化高等学校・奈良文化幼稚園)	79,261 m ²
郡山キャンパス (奈良学園中学校・高等学校)	96,037 m ²
登美ヶ丘キャンパス (奈良学園大学 (奈良産業大学) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部・奈良学園登美ヶ丘高等学校・奈良学園登美ヶ丘中学校・奈良学園小学校・奈良学園幼稚園)	95,427 m ²
(志賀直哉旧居 (奈良学園セミナーハウス))	1,438 m ²

【キャンパス毎の建物面積】

三郷キャンパス (奈良学園大学 (奈良産業大学))	32,715 m ²
高田キャンパス (奈良文化高等学校・奈良文化幼稚園)	25,572 m ²
郡山キャンパス (奈良学園中学校・高等学校)	17,446 m ²
登美ヶ丘キャンパス (奈良学園大学 (奈良産業大学)・奈良学園大学奈良文化女子短期大学部・奈良学園登美ヶ丘高等学校・奈良学園登美ヶ丘中学校・奈良学園小学校・奈良学園幼稚園)	46,325 m ²
(志賀直哉旧居 (奈良学園セミナーハウス))	421 m ²

8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）



Ⅲ. 事業の概要

1. ハイライト

(1) 奈良学園大学（奈良産業大学） ―実習の達成と人間力の育成―

大学名称を変更して3年目は、人間教育学部に123名、保健医療学部に81名の新入生を迎えた。人間教育学部は教育実習、保健医療学部は領域実習と、両学部ともに、本格的な実習に初めて学生を送り出した。

人間教育学部では、1期生の92名が、80校の小学校に教育実習に赴いた。文部科学省が推奨する母校以外の小学校に、自らが受け入れを依頼し実習を完了した学生は29名であり、日常からボランティアや教育支援活動への参加が実を結んだ成果と捉えられる。キャンパスのある三郷町の三郷小、三郷北小にも受け入れをいただいた。なお、教育実習に参加した学生全員がこの単位認定を得ることができた。

保健医療学部でも、1期生の75名が、大和郡山病院、奈良西部病院等、56ヶ所の病院等施設での領域実習に参加した。この実習は、9月5日から3月3日までの半期を通じて全24クールが実施された。先輩がいない1期生は、実習参加に不安が大きかったようであるが、概ね好評を得て、68名が関連科目の単位を修得した。

また、9月11日には、奈良学園大学シンポジウム「こころの看護が社会を変える。～未来へのメッセージ～」を昨年度に引き続き、大阪市にある堂島ホテルで開催した。各校種の教職員をはじめ各方面400人に迫る来場者を迎え、医療・看護サービスに対する利用者意識の期待の高まりに応えるため、今後の看護職の役割と未来について見識ある論客者のみならず、一般の方々による議論が交わされた。本学の学生によるプレゼンテーションも行われ、絶大な好評価を得た。

学生募集を停止した既存学部（ビジネス学部、情報学部）の最終学年が卒業を迎えた。自らが研究に取り組んだプロジェクト演習等を通じて、社会で役立つ多角的に考察する力を身に付ける活動を実施し、成果発表を行った。その成果である、就職率は、95.9%（ビジネス学部96.4%、情報学部94.1%）であり、全国平均を達成している。



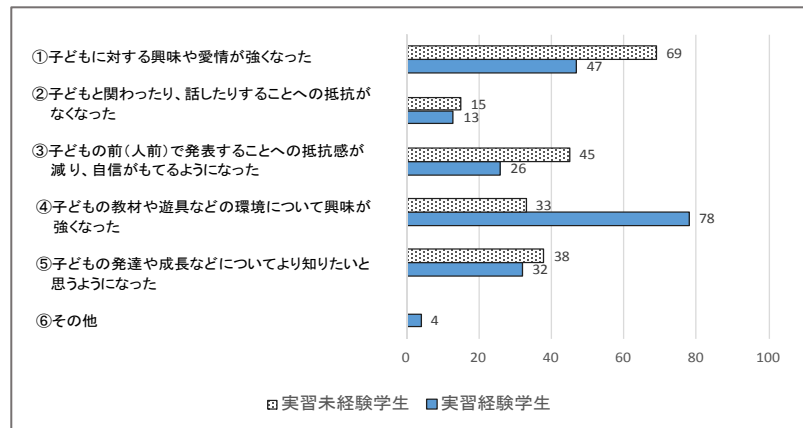
9月11日奈良学園大学シンポジウム

(2) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

—学修成果：子育て支援広場アンケート調査より—

将来保育者を目指す学生には、子ども理解に立った実践力向上に向けた取組が必須である。本学では子育て支援拠点としての「つどいの広場」が毎日開設されており、学生の実践力を育むために授業との連携を推進してきた。特に平成28年度は参加を位置付けた授業が「音楽の基礎」「保育実習指導」「幼稚園実習」「乳児保育」「子ども学ゼミ」となり、対象学生の幅が広がった。そこで、年度末に参加学生へのアンケートを行い、広場への参加が実習未経験者（62名）と実習経験者（77名）別にどのような効果があるかを調べた。

「広場参加が実習や卒業後の進路に活かされるか」の問いに対しては、99.3%の学生が「大いに活かされる」と答えている。右の図は、「参加したことで自分自身にどのような成果や変化があったか」という質問に対しての結果（複数回答）である。



実習未経験の学生①、③、⑤の回答が多い。一

方、既に実習を経験している学生は、①、④、⑤への回答が多く、実習前よりも実習後の方が子どもの教材や教具などの環境についての興味が強くなるという学修成果が顕著に現れている。

さらに、担当教員や広場スタッフからは、学生は子どもたちの反応から自分なりの課題がすぐに見い出せ次への実践の意欲に繋がっていること、一緒に遊ぶことで子どもの実態理解ができ、その後の指導案や教材作成へのイメージがもちやすくなった等の意見があった。

これらから、座学による参加前の計画や予想と体験が連動して学生の意欲や学びに繋がっていることを成果として捉えることができる。また学生は、自由記述に実習では得られにくかった保護者と直接関わる経験を上げており、保育への考えをさらに深めるものとなっている。広場は当日の利用者年齢や人数等が様々であることから、保育者に必要な「臨機応変に対応する力」が獲得できる場でもある。次年度は、さらに保育者としての資質に繋がる力の構築に向け、学生の積極的な参加を働きかけていきたい。

(3) 奈良文化高等学校 「きららガール活躍」 ～地域で、そして世界へ～

本校は山田勝美校長の着任以来、地域連携を重視し、葛城市を中心に地元との交流や協力関係を活発に行なって来たが、平成28年度においてはこれを更に推進した。

葛城市寺口地区との食育を視野に入れた連携や、恒例となっている「みんな de お祭り（奈良県社会教育センター）」、「夢フェスタ in かつらぎ（當麻寺）」、「なら燈花会ファッションショー（奈良県新公会堂）」に加え、平成28年度は新たに大和高田市や葛城青年会議所などからも協力の依頼があった。

本校生は大和高田市において開催された市主催の「未来は元気フェスティバル」、葛城青年会議所主催の「結いの心マルシェ」で運営スタッフを務めてイベントの成功に寄与し、「葛城地域のええとこ再発見！！～「どんなまち？」を「こんなまち！」に！～」では葛城地区4市1町の首長に対して街づくりに関する提言を行なうなどの活躍を見せた。

特に奈良県が主体となって開催された「奈良県大芸術祭」では、橿原神宮境内で県知事出席のもと行われたオープニングイベントに30名以上の生徒が参加。運営スタッフのほか、古代衣裳ファッションショーのモデルを務めて脚光を浴びるなど、「奈良文化」高校の面目躍如たるものがあった。

こうした地域交流、地域振興の取り組みは、地域に愛され、必要とされる学校づくりのみならず、生徒の自信や自己有用感の喚起に大いに役立っている。

更に平成28年度に特筆すべき事項として、国が進める「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム高校生コース」に本校から初めて応募し、6名もの採用者を出したことが挙げられる。

全国で510名、うち奈良県から13名の派遣留学生在が採用されたが、このうち6名が本校衛生看護専攻科の学生であった。しかも6月18日に神戸市で開催された西日本地区の壮行会で留学生代表として、文部科学大臣を前に決意表明を読み上げた4名の中にも本校生の姿があった。この際の本校生の「日本人として誇りをもって、多様な文化を持つ人々を尊重することができる看護師として、社会の役に立てるようになりたい」という言葉は評判が高かったと文部科学省の担当者から伝えられた。

6名は奈良県庁や奈良新聞社、奈良日日新聞社などを表敬訪問した後、7月28日に出発。カナダのNiagara Collegeで約1カ月間、看護と英語を学んで帰国。この経験を活かしてますます勉学に励んでいる。



古代衣装ファッションショー



留学生壮行会での決意表明

(4) 奈良学園中学校・高等学校 —SSH校として活動を充実—

平成28年度は、文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されて最終の5年目となった。当事業を高1～高3の3学年で実施し、2月にはなら100年会館でSSH研究発表会を実施した。ベトナムでの海外サイエンス研修は、SS発展コースに所属する生徒10名全員が参加した。

また、SS研究チームが日本植物学会高校生ポスター発表で「優秀賞」を、グローバルサイエンスフェスティバル（パネル発表部門）では「奨励賞」を受賞した。本年度の主な活動は次のとおりである。

- ① 高校1年生対象の学外サイエンス学習（京大、神戸大、大教大、大阪府水産技術センター、橿原考古学研究所等々での見学や講義のべ23回）
- ② SS公開講座（著名な方を招聘して講座を年3回実施）
- ③ SS出前講義（大阪教育大等の先生が本校で年7回講義）
- ④ ベトナム海外サイエンス研修（10名の生徒が、12月にベトナムの高校と大学を訪れ、研修と交流。現地の農村ナムソン村やホン川河口、日本企業、ベトナム教育訓練省、在ベトナム日本大使館でも研修。）
- ⑤ 国内研修の実施（八重山諸島、兵庫県豊岡市、東京海洋大、阪大等7回実施）
- ⑥ SS研究チームをはじめとする、科学系部活動等の充実
- ⑦ 地域小学生への発信事業「奈良学塾」の実施（年2回実施）



ナムソン村交流



ハノイ工科大学交流

(5) 登美ヶ丘キャンパス (奈良学園幼稚園・小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校) 一繋がる学びと教育力一

平成 28 年度は、前年度の人事面での改革を継続し、幼稚園・小学校・中学校・高等学校共に「3 (Pre-primary) +4 (Primary) -4 (Middle) -4 (Youth) 制」を意識した教育活動を行った。また、5 月に「西日本私立小学校連合会研修会」を本校で開催し、幼稚園から高校までの教職員で対応した。1000 名以上の教育関係者に、公開授業や本校の教育活動の様子を見ていただく機会を持つことができた。

平成 28 年度における教育の特色としては、まず幼稚園で、前年度開始した「2 歳児保育」が順調に継続できたことである。「2 歳児保育」を経て幼稚園に入園する者が多数に上ったこともその効果の表れである。また、体力作りや運動能力の向上を目指して「うきうきタイム」という時間を設け、日常的に運動に親しむ環境を整えた。さらに、幼稚園児及び小学校児童を対象に「ならとみサッカースクール」を設立し、本校園の環境を生かした異学齢交流活動及び体育活動を行った。週 1 回の開催だが、多くの園児・児童が参加し、そこに中高のサッカー部員も加わるといふ本校ならではの取り組みである。異学齢交流活動においては、9 月に「MY 尚志祭 (文化祭)」、2 月に PP・P「尚志祭 (学習発表会)」、10 月には「合同運動会 (PP～Y)」を開催し、幼小連携・小中連携、さらには幼稚園から高校生までの連携を行った。国際交流活動においては、小学校におけるハワイ宿泊学習 (5 月)、高校におけるオーストラリア語学研修 (6 月) の継続に加えて、5 月に中国の幼稚園関係者の訪問 (幼稚園)、6 月に中国の北京師範大実験中学校の訪問 (高校)、モンゴル子ども宮殿音楽使節の訪問 (小学校) を受け入れ、9 月にはオーストラリアの連携校からのホームステイ受入など、幼小中高に互って交流を進めた。体験学習・キャリア教育活動においては、小学校での地域の方による講演 (奈良新聞社・吉野紙漉き・春日大社宮司) や、Y1 (中 3) でのキャリアリサーチ (企業研究所訪問) やキャリアトーク (保護者による職業案内) に取り組み、児童生徒の意識向上を図った。



西日本私小連研修会



ならとみサッカースクール

(6) 奈良文化幼稚園 (旧 奈良文化女子短期大学附属幼稚園)

―「わんぱくの森」プロジェクト～遊びをとおして元気！未来行～―

平成 28 年 11 月 1 日に創立 50 周年を迎えた。その記念事業として 27 年度より 4 年構想の「わんぱくの森」プロジェクトがスタートした。「わんぱくの森」は、「遊びこそ学び」という教育方針をより積極的に象徴するフィールドである。

28 年度は「わんぱくの森」第Ⅱ期園庭整備を行った。園庭東部分、どろんこ水舞台を中心に、水やどろ、土という素材に思い切り触れて遊べる環境をつくった。心を開放して、たくましく外遊びを展開する子ども達の活気ある姿は、まさに、幼児教育は“心の根っこ”育てであることを、我々教職員そして、保護者に再認識させた。

環境を整備する一方で、教育目標の焦点化を行い、50 年続いてきた本園の教育理念である遊びを中心とした教育のあり方をより深化させるために、教員研修に力を入れた。そして、園の取り組みやこれからの方向性を保護者と共有できるように、情報の発信に努めた。



じゃぶじゃぶ池で遊ぶ子ども達



ガチャポンプとどろんこ遊び

2. 設置校の主な事業と進捗状況

(1) 奈良学園大学 (奈良産業大学)

① 教育活動

ア) ビジネス及び情報学部による「実践力」を養成するプロジェクト演習では、発表会を開催し、成果の確認を行った。(ビジネス学部：平成 29 年 1 月 27 日、情報学部：1 月 24 日、2 月 2 日、3 日)

イ) 人間教育学部で、1 年後に迫った教員採用試験の合格をめざして「教師塾」及び教職センター講座を開催している。平成 28 年度は、通年で週 3 日 (全 120 コマ) 開催した。さらに、選抜者による「naragaku GT」をスタートさせ、35 名の学生が、教員採用試験対策講座や勉強合宿に参加している。

ウ) 保健医療学部では、基礎看護学実習（平成 29 年 2 月 15 日～22 日）に加え、領域実習（平成 28 年 9 月 5 日～平成 29 年 3 月 3 日）が始まった。国家試験対策の講座も実施され、国家試験対策模試が 2 回実施(1/6、2/9)された。

② 研究活動

ア) 奈良学園大学紀要を 2 集発行した。第 5 集（平成 28 年 9 月発行）では 20 編、第 6 集（平成 29 年 3 月発行）では 12 編の論文等を発表した。

イ) F D 活動では、平成 28 年 8 月 23 日に京都大学高等教育研究開発推進センター溝上慎一教授を、登美ヶ丘キャンパスでは、平成 29 年 3 月 9 日に帝京大学高等教育開発センター井上史子教授を招いて講演をいただいた。また、登美ヶ丘キャンパスにおいて、福井大学医学部看護学科上野栄一教授をお招きし、保健医療学部にて特化した内容の研究会を実施した。それらに加え、本学の教育に係る教員を対象に公開授業は定期的に開催され、授業研究を継続実施した。授業改善シート及び授業評価アンケートも継続実施した。

ウ) 科学研究費については、31 件（内、研究代表 13 件）が採用されている。（昨年度 24 件（内、研究代表 12 件））

③ 学生支援

ア) 聴覚障害を持つ学生の授業支援において、学生 TA によるノートテイクと外部支援団体との委託契約を行い、後期から 8 科目の講義の支援を実施した。これに関する研修会（11/5、12/27、2/14）を行い、延べ 50 名の学生と教職員が参加した。また、学生 TA を対象に「ノートテイク養成講座（11/14、11/18、11/25）」を実施し、延べ 30 人が参加した。

④ キャリア支援

ア) インターンシップにおいて、人間教育学部 3 年次生 33 名がインターンシップ実習に赴いた。このうち、奈良県中小企業団体中央会主催のインターンシップに参加した学生が、近畿経済産業局主催・奈良県企業魅力発信シンポジウム大会において発表し、最優秀賞を受賞した。

イ) 資格試験講座では、三郷キャンパスにおいて、秘書技能検定 2 級・3 級とビジネス文書検定 3 級の講座を実施し、どちらの検定とも、受験者の合格率が全国平均を上回った。

⑤ 社会連携・地域貢献

ア) 王寺町と共催の「リーベルカレッジ」を 4 回開催し、延べ 425 名の参加を得た。「登美ヶ丘カレッジ」は 2 回行い、延べ 75 名の受講があった。K-SCAN（けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク）が主催する「けいはんな科学体験プログラム」の講座に参加し、小学生を対象とした体験型の教育プログラムを実施し、4 回のシリーズで延べ 205 名が参加した。

公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構（けいはんな推進機構）が奈良県事業「学研都市研究成果活用支援事業補助金」の交付を受けて主催し、本学保健医療学部と共催している「超高齢化社会における生活支援に向けた地域産業創出を考える研究会」は、3回の講演会を開催し、158名の参加を得た。関西学研都市に位置する大学で創る「関西文化学術研究都市7大学連携市民公開講座2016」に参画し、本学担当回は201名の受講生を得て好評であった。

- イ) 三郷町で結成された「産官学地域活性化連絡協議会」ではその一員として積極的に活動に参加した。地域防犯事業「イルミネーション事業」では、三郷駅前ロータリー、近鉄信貴山下駅前、大和川にかかる「多聞橋・若草橋」をイルミネーションで飾り付け、地域防犯を目的とした明るい町作りに貢献した。観光振興事業「ひまわり植生」では、昨年度に引き続き三郷町の町花である「ひまわり」を植生し、観光振興の手伝いを行った。地方創生事業(まちづくりワーキング)は、昨年度開催された「みんなでまちづくりを考える公開講座」を発展させ、「まちづくり研究会」の発足に至っている。この研究会では住民が中心となり、本学学生も参加してコミュニティビジネスに関する研究を進めている。
- ウ) 大学キャンパス開放イベントを継続実施している。お花見イベント、夏休み花火イベント、学生ボランティアサークルによるクリスマスイベントでは、地域の多くの方々の参加を得た。なお、同サークルによる小学生健全育成事業「科学遊び・学びの広場プロジェクト事業」は、奈良県青少年健全育成事業助成金採択プレゼンテーションにて助成金採択を獲得した。
- エ) 課外活動の延長で、例年通り、和（やわらぎ）マラソン(王寺町、平成28年12月23日)、奈良マラソン2016(平成28年12月10日)、第41回十津川温泉郷「昴の郷」マラソン(平成29年1月29日)、大和川河川敷沿い一斉清掃(平成28年10月22日約100名/平成29年3月5日約50名)等でボランティア活動を行った。
- オ) その他、マーチングバンド部は、ムジークフェストなら(平成28年6月19日)に参加。陸上競技部は、三郷町3時間耐久リレーマラソン(平成29年1月19日)、第70回金剛葛城山下一周駅伝(平成29年2月5日)、大和川ジョギングコース完成記念[走り始め](平成29年3月19日)にボランティア参加している。

⑥ 国際交流

- ア) 友好協定締結校から特別聴講留学生として蘇州科技学院5名、黒龍江東方学院8名、長江大学16名(内半期6名)、計29名を受け入れた。また、夏季短期研修留学生として台湾屏東科技大学13名、青島理工大学6名、三

峡大学 3 名、蘇州科技学院 9 名、長江大学 2 名、東方学院 1 名、カンボジア・メコン大学 2 名、タイ・スィーパトゥム大学 1 名、香港城市大学専上学院計 10 名、本年度締結校のダナン大学 2 名、49 名を受け入れた。

- イ) 青島理工大学 (中国青島市) へ 4 名 (人間教育学部 1 名、保健医療学部 3 名) を語学研修留学 (10 日間) に派遣した。
- ウ) 東アジア文化交流研修 (2 泊 3 日) には、東亜大学校 (韓国釜山市) の協力を受けて本学の学生 10 名 (人間教育学部) 及び特別聴講生を派遣した。
- エ) カンボジア短期研修 (10 日間) では、カンボジア・メコン大学 (カンボジア) の協力を受けて本学の学生 13 名 (人間教育学部) が参加した。

⑦ スポーツ振興

- ア) 硬式野球部は、第 65 回全日本大学野球選手権大会に 7 年連続 20 回目の出場を果たし、本学初の「ベスト 4」に進出した。4 年次生の鈴木佳佑 (投手) は、日本学生野球協会表彰選手に選ばれた。個人では 3 年次生宮本文志 (内野手) が、第 29 回ユニバーシアード全日本代表選手に選ばれた。また、同部監督の酒井真二が、侍ジャパン大学日本代表チームコーチに就任した。女子バスケットボール部は、第 68 回全日本大学バスケットボール選手権大会に 5 年連続 5 回目の出場を果たした。陸上競技部は、第 78 回関西学生対校駅伝 (総合 13 位) に出場した。マーチングバンド部 (平成 26 年度創部) は、第 44 回マーチングバンド全国大会に初出場し、銀賞<一般の部・マーチングバンド部門 (大編成)>を獲得した。
- イ) クリスマスイベントとして『スピードガンコンテスト』と『ストラックアウト』(平成 28 年 12 月 23 日)を開催した。その他、剣道教室・錬成大会 (平成 28 年 12 月 25 日~27 日)等の事業を行った。
- ウ) 救命講習会 (平成 28 年 7 月 13 日)、熱中症対策セミナー (平成 28 年 7 月 15 日)等を開催し、スポーツ活動における安全対策の意識啓発を進めた。

⑧ 環境整備

- ア) 信貴山グラウンド及び三郷キャンパス内の樹木の環境整備作業を実施した。
- イ) 三郷キャンパス 7 号館 (図書館) 空調設備の更新を行った。
- ウ) 校内アスファルト舗装の修繕を行い、環境整備を図った。
- エ) 三郷キャンパスでは、経年劣化している受電設備の修繕を順次進めている。

⑨ 学生募集

- ア) 「人間教育学部」「保健医療学部」の 4 年目の学生募集に注力した。高校等の教員に対して、県内・近畿圏を中心に延べ 2,699 校の高校訪問、延べ 3,391 校の塾・予備校訪問を行い、学部教育に対する理解の深化を図った。また、受験生に対しては、会場ガイダンス 107 会場、校内ガイダンス 207 校に参加し、説明を行った。また、オープンキャンパスは人間教育学部、

保健医療学部とも5回開催し、延べ606人（内訳：人間教育学部187人・保健医療学部419人）の高校生の参加を得て、本学の特長を伝えた。オープンキャンパス全参加者は、950人（内訳：人間教育学部290人・保健医療学部660人）であった。

- イ) 人間教育学部は、志願者数279名となり、130名の新入生を迎えることとなった。
- ウ) 保健医療学部は、志願者数1,114名となり、88名の新入生を迎えることとなった。

(2) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

平成28年度、第三者評価を受け、一致した教育活動が評価され、適格認定を得た。前年度に引き続き経営改善を図り教学改革を推進するため、ハード面での環境整備、ソフト面でのディプロマポリシーの到達度評価（レベルチェック）の実施、研究活動の充実、大学機能を生かした社会連携・地域貢献等に取り組んだ。

① 教育活動

実習を中心に置いた実践力を高める教育活動を以下のように展開し、教育内容の充実を図った。

- ア) レベル別の到達度を設けたシラバスで授業を展開し、学生による獲得を目指す力の到達度自己評価に取り組み、レベル2の達成率80%以上を実現できた。また、実習を柱としたカリキュラムマップに基づくディプロマポリシーの到達度評価については、各レベルの指標や具体的な表現の見直しを図り、次年度シラバスを作成した。全授業で発表力、実践力向上を目指した。
- イ) FD研修会は年間5回開催した。「manaba folio」（本学のシステム）による授業アンケート及びレベルチェック実施に向けたコンピュータ研修、学習内容をより向上させるための「能動的学習の方策の工夫」、「実習から見えてきた課題」についての研修など、授業方法の改善に取り組んだ。
- ウ) 公開授業期間を年2回設定するとともに、授業アンケートを計4回実施し、クロス集計による結果分析を踏まえながら授業の改善を図った。授業アンケートでは、学生の授業満足度は高いが、授業時間外学習の取組について学生の主体的・意欲的な取組姿勢に課題が見られることから、次年度に向けた対策としてシラバスに明確な時間外学習の内容と目安となる学習時間を明記するなどの工夫をした。
- エ) リメディアル教育の実施については、本学としての基本的な考え方を整理し、共通理解を図った。その上で現在の取組をリメディアル教育としての枠組みに位置付けた。また、次年度には研究室付近の学習スペースの効果

的な活用と学生への相談や支援、実習に向けた基礎力の向上などの具体的取組を実施していくことを確認した。

- オ) 実習担当者会議を年間7回開催し、受入園・施設の確保や実習内容の充実を図るための受入先との連携など、実習体制の強化に努めた。各実習終了段階で成果と課題を総括し、その結果を学科会議や教授会、FD研修会等で検討した。園からの全体の実習評価は高くなっている。また、実習園への訪問指導については、全教職員が共通理解を図りながら実施し、実習における学生支援に効果を上げることができた。なお、「幼稚園実習Ⅰ」の受入先確保については、本年度も大和郡山市・生駒市・天理市・田原本町の4市町との間で連携協定を継続しているほか、奈良市・橿原市・宇陀市の3市の受入協力も引き続き得られている。実習参加基準のGPAをはじめとする内規運用に基づく実習延期学生の指導については、学科会議で内容や方法を検討し、当該学生には実習に参加できるための基礎的知識、ピアノ技術、国語力等の向上を図るため、個別の課題に取り組みさせた。
- カ) PROGテストは昨年度の試行を経て、本年度から本格的に実施した。学生には入学時と卒業時に取り組みさせ、資質・能力の自己開発の実態についてその都度分析した。学生全体のテスト結果や傾向については教授会で報告するとともに、HPでも公表し、個別結果はクラスアドバイザーが管理し活用している。
- キ) 入学直後に実施した入学後学力テスト、PROGテスト、モットー「清楚の美、健康の輝き」を具現化したソーシャルスキル自己評価、生活調査（腸ストレステスト）とGPAについてクロス集計による分析を行った。学生の実情に合わせ、ソーシャルスキル自己評価表の見直しも行った。次年度の学生指導に生かしていきたい。
- ク) 子育て支援事業への学生参加を推進し、ハイライトに示されているように成果を得た。
- ケ) 教員全員による一致した指導の結果、フェスティバル及び子ども学ゼミでの発表力、参加意欲や態度に大きな向上が見られた。
- コ) 壁面を利用した展示、植物展示等の教育環境を高める活動がさらに充実し、授業外でも教育成果の向上に役立っている。
- サ) 子育て状況の変化により、「病児保育」へのニーズの高まりを踏まえ、昨年度に引き続き本年度も「病児保育」の授業を開講し、3月15日の卒業と同時に28名が認定病児保育スペシャリストとして認定された。

② 研究活動

教員は各自専門分野に関わる研究活動、学会参加、著作物発表を行っているが、それ以外の特記事項を以下に記す。

- ア) 紀要第 47 号 (145 頁) を発行した。著者 16 名 (奈良産業大学 1 名、非常勤講師 1 名、他教育機関 1 名、本学職員 1 名を含む) による 11 報文である。
- イ) 2 月 8 日には研修会 (研究活動報告会) を開催し、今年度に各自が行った研究について紹介し合い、相互理解を促し、今後の共同研究の可能性について話し合った。
- ウ) 文科省科学研究費 2 件継続。このうち 1 件は日本数学教育学会で、もう 1 件は海外の北米スポーツ心理学会で発表した。
- エ) 短期大学における幼児教育の在り方に関して、学内 4 名の教員による継続中の共同研究の成果を、全国保育士養成協議会研究大会 (発表 2 件) 及び本学紀要 (論文 3 報) にて発表するとともに学内でも報告した。
- オ) 上記 ウ) と エ) の他にも学会発表としては、国際学会発表 1 件、国内学会発表 1 件、国内研究会発表 1 件を実施した。
- カ) 特別教授が「第 22 回 BESETO 美術祭東京展大賞 (最優秀作家賞)」と「第 51 回関西二科展奨励賞」を受賞した。

③ 学生支援

- ア) 就職力向上、特に公務員試験突破を目指して、プログレス室で計画し実施した。特に本年度においては学生の公立園への関心が高まったと同時に公務員講座への希望者も約 70 名となった。
- イ) 学園祭やフェスティバル等、学生参加を一層推進し、実行力、発表力を養う機会となった

④ 社会連携・地域貢献

- ア) 子育て支援事業として奈良市から受託している「つどいの広場」は、「ちびっこ広場」と合わせて 9,344 名の利用があり、昨年度に比べて 7% 増となった。利用者の満足度も高い。「ちびっこ広場」では本学教員の講座や、ゼミ活動を通しての学生のイベント参加もあり、本学の研究や教育に大きな成果を上げている。今年度も、「つどいの広場」でも足育や発達など母親の関心が高いテーマでミニ講座を行ったり、乳幼児のための応急手当の講座を登美ヶ丘公民館との共催で実施したりして、地域に開かれた広場づくりを目指した。
- イ) 公開講座は、子育て親子対象講座として「いっしょに遊ぼう」、一般対象の教養・自己充実講座として「狛犬探訪」、教員・保育士対象講座として「幼児教育講座」を実施した。各講座とも参加者より高い満足度が得られたが、さらに地域の要望に応えたテーマ検討や、参加者を増やすための方策が検討課題となっている。
- ウ) 前年度に引き続き、平成 28 年度も奈良県を中心に近隣の小中高の指導者

及び選手を対象に「中高大連携地域バスケットボール教室」の開催を本学アリーナで4回実施した。160名（指導者36、小中高生124名）の参加を得て、地域のバスケットボールの普及に貢献した。

⑤ 環境整備

- ア) 年度限定経費にて、アリーナのエクササイズルームに大型テレビモニターとDVDデッキを設置、ML教室2に五線入りホワイトボードを設置、造形教室に作品乾燥棚を設置等の教育環境整備を行った。また、1号館（1～2F、4～5F）及びアリーナの全ての女子トイレの便座を洗浄温便座に交換し、施設環境の充実を図った。
- イ) 図書館は、学園大との共同利用の施設として、保有資料全体をまとめて利用できるようにしている。ノートパソコンを備え、グループ学習室もよく活用されている。資料の整備を進める一方、選書、図書展示に学生参加を図って工夫をこらすようにした。また、開館時間を延長することによっても学生にとって利用しやすい環境づくりに努めた。

⑥ めざましいクラブ活動

各クラブの活躍は、クラブ生のみならず一般の学生へも好影響を与え、大学全体に自信と活気をもたらす好要因となっており、学生募集にも好影響をもたらしている。

- ア) バスケットボール部は短期大学チームとしての活躍だけでなく、奈良学園大学との合同チームでは、関西学生リーグ1部で活躍し、5年連続して日本インターカレッジ大会にも出場した。
- イ) ソフトボール部は、短期大学単独チームとしてのハンディを克服しながら昨年に引き続き、関西学生リーグ1部を堅持し、西日本インターカレッジ大会に4年連続出場し、日本インターカレッジ大会には3年連続で出場しベスト8に入賞した。
- ウ) 文化部においては、書道部の大仏書道展への入選、茶道部や吹奏楽部も活発に活動している。

⑦ 学生募集

- ア) 本年度も全教職員による募集体制を維持し、募集活動に努めた。
本学の取り組みを高校訪問・説明会・チラシ等で、詳しく情報発信をした。そのため本学の教育内容が質的に向上したことや、入学から就職まで手厚く面倒を見ることが、受験生や高校教員に理解を得られたことが大きい。
しかし、3年コースを募集停止し、4大昇格に合わせて判定基準を厳しくしたため、結果56人の入学者となった。
- イ) 入学試験においては、アドミッションポリシーに基づき選抜できるよう、入試科目及び面接内容を見直した。

(3) 奈良文化高等学校

①教育活動

- ア) iPad を使った情報の授業や英語学習法など情報端末機を積極的に活用し教育効果を高めた。
- イ) 食文化コースの専門教育については、調理実習を年間 20 回実施し、プロのシェフを講師に招き特別授業も行った。また、食育指導士の指導による味噌作り、素麺手延べ体験などのフィールドワークや食育に関わる出前授業を実施した。
- ウ) 衛生看護科、衛生看護専攻科においては、Web 情報を活用し、効果的な国試対策を行った。看護師試験は 100%の合格には至らなかったが、准看護師試験は 100%の合格率であった。
- エ) 官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 J A P A N 日本代表プログラム【高校生コース】のプロフェッショナル分野に 6 名の学生が採用決定され、7 月 28 日から 1 ヶ月間、カナダの Niagara College での看護専門研修に参加した。

②生徒等支援

- ア) 教育相談体制に関すること（スクールカウンセラー等）
 - ・毎週 3 回スクールカウンセラーが来校して、生徒・保護者は勿論教員にもさまざまな悩みについてカウンセリングを行っている。
- イ) 高等学校生徒就学支援に関すること
 - ・家計急変により就学の継続が困難となった場合の支援については、学園就学支援規程に基づく支援体制がある。
- ウ) 生徒等に対する表彰等
 - ・新体操部、バスケットボール部、ソフトボール部、少林寺拳法部がそれぞれ全国大会に出場し活躍した。新体操部においては、インターハイ団体 6 位入賞し、奈良学園栄誉賞を受賞した。
 - ・スポーツで優秀な成績を収めた 3 名に奈良文化栄誉賞が贈られた。

③社会連携・地域貢献

- ・全校生徒による通学路周辺の清掃活動を実施した。
- ・第 25 回奈良県産業教育フェアや近鉄百貨店橿原店での「夏休みこども博」に衛生看護科が参加し、作品展示や実演コーナーとして血圧測定と体脂肪測定を実施した。
- ・「がん検診を受けよう！奈良県民会議」街頭啓発活動に衛生看護専攻科が参加し、県民への呼び掛けと啓発グッズの配布を行なった。

- ・奈良県大芸術祭のオープニングに運営スタッフとして、また古代衣装ファッションショーのモデルとして、本校の生徒が参加した。
- ・奈良燈花会ファッションショーにモデルや撮影・照明スタッフとして、本校生徒が多数参加した。
- ・當麻寺周辺を中心に開催された『ゆめフェスタ in 葛城』に茶道部が参加し、地域との連携を深めた。
- ・葛城市寺口地区への桑の葉摘み体験を実施し、桑粉を使った菓子作りを通して地域との連携を行った。
- ・寺口ファームとの地域連携で誕生した本校生徒の「桑姫」達が葛城市や大和高田市の各イベント会場において桑パン・桑茶の販売を行った。
- ・食育に漢方の考え方を取り入れるため、清栄薬品株式会社、株式会社森田草楽堂と連携協定を締結した。
- ・地域交流の場（学園会館一わの広場一）に桑の葉の粉末加工を行うための作業場「桑姫作業所」が完成し、食文化コースの生徒をはじめ、関係者が参列してオープニングセレモニーが開催された。
- ・本校が所有する考古資料「伊瀬敏郎コレクション」の「竹内遺跡出土資料」277点が奈良県指定文化財に指定された。

④環境整備

- ・施設整備については、校舎、寮のセキュリティーを含め、設備の整備が完了し、維持管理に努めている。
- キャンパス内の環境整備については、本年度も卒業生が遊歩道「万葉の小径」に卒業記念植樹をし、万葉集などに詠まれた草花が径沿いに次々に植えられて来ている。
- ・合宿施設については、4月にスポーツ特進コースの生徒を対象にリーダーズ研修を本年度も実施した。また多くのクラブで長期休暇等を利用した合宿を行い実力養成に効果を上げた。さらに、8月と3月には今年度も特進コースの生徒を中心に「勉強合宿」を実施し、受験に備え「自学自習」の習慣と効果的な学習法を身に付けることができた。

⑤生徒等募集

- ・受験生や保護者に本校のメリットを訴求できるよう工夫をこらした、生徒が参画した「学校案内」を作成した。また、別冊（インフォメーションブック）では食育、進路、学費等の内容を詳細に紹介し、広範囲に持参または送付し、親切丁寧な募集活動を実施した。
- ・本年度も近畿各府県の広域地域にも広報活動を展開した。

また、受験地域も広がりを見せ、認知度も浸透してきた。

(4) 奈良学園中学校・高等学校

① 教育活動

ア) SSH(スーパーサイエンス・ハイスクール)事業

平成24年度にSSH校に指定され、第1期指定最終の5年目となった。学外の大学等でのサイエンス研修、大学の先生等に来校していただいたのSS出前講義、SS公開講座、ベトナムの高校・大学とのサイエンス交流、国内研修、理科課題研究などを実施し、2月には公開発表会を開催した。ベトナムでの研修には、高2のSS発展コース生(10名)全員が参加した。

また、SS研究チームが日本植物学会高校生ポスター発表で「優秀賞」を、グローバルサイエンスフェスティバル(パネル発表部門)では「奨励賞」を受賞した。

イ) 中学校卒業論文

自ら課題を発見する力や思考力、表現力を培うことを目標に、中学3年生一人一人が1年間かけて卒業論文を作成している。中高の全教員が1人当たり生徒数名を担当して助言等を行いながら生徒の論文作成をサポートしている。

ウ) 医進コースと進路指導

医進コースの6期生が卒業した。国公立大の医学部(医)には、現浪合わせて10名、歯学部3名、獣医学部に1名が合格。私立大医学部(医)には12名、歯学部9名が合格した。東大へ4名、京大へ13名、阪大へ14名が合格した。

エ) 国際交流

国際理解教育として、高校1年生の希望者34名がオーストラリアでの海外短期研修プログラムに参加した。夏期休暇中の二週間、アデレード近郊の学校での研修、ホームステイなど異文化体験と英語研修をする良き機会となった。

② 生徒等支援

ア) 日常的には担任が懇切に指導し、生徒をサポートしている。スクールカウンセラー(臨床心理士)は、毎週水曜日に全日、学校で生徒、保護者のカウンセリングに当たっており、信頼されている。

家計急変の高校生に対しては、授業料免除の制度もある。

③ 社会連携・地域貢献

ア) 地域との連携として、市民向け公開講座「奈良学塾」を2回実施した。1回目は、7月に小学生と保護者を招待し、里山での研修、2回目は2月

に、化学実験講座を実施した。

また、年2回、生徒会が中心となり、通学路の清掃活動を行っており、地域から好評を得ている。

④ 環境整備

ア) 校地内の里山を年次計画で整備してきた。施設設備については、校舎が7年前に新築され、完備した状態である。第一体育館(2階建て、空調完備)、第二体育館、青雲館(武道場、卓球場)、テニスコート(5面)、人工芝のサッカー場、グラウンドがあり、教育環境は充実している。

⑤ 生徒募集

ア) 学校説明会の実施、学校外での説明会への参加、塾等への訪問活動などを精力的に実施した。

中学は、160名定員に対して志願者がのべ774人で、158名入学した。高校は、40定員に対して志願者が416人、入学者は42名であった。中学、高校とも適切な人数に収まった。

(5) 奈良学園幼稚園・小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

① 教育活動

ア) 幼稚園では、「2歳児保育『いちご組』」を継続した。広報イベントの「2歳児わくわくルーム」という体験教室がこの入会者に繋がっている。園全体で取り組んでいるマーチング活動については、昨年に続いて園内外での発表活動を行った。園児の体力向上を図るため、従来のスポーツ教室や水泳教室、サッカー教室、さらに体育指導教員による「うきうきタイム(朝の10分間体育遊び)」を実施した。預かり保育では、昨年度同様、夏期・冬期・春期休業中において実施した。

イ) 小学校では、5月に「西日本私立小学校連合会研修会」を本校で開催し、1000名以上の教育関係者に対して、公開授業や本校の教育活動の発表に全教職員で取り組んだ。小学校から中学校への内部進学では65名(進学率89%)が中学校に進学することになり、高い進学率であった。理科の天体観測会(4~6年)、国語・社会のモンゴル体験教室(2年)、奈良新聞社(4年)・吉野紙漉き(4年)・春日大社宮司(3年)による地域の方の講演、各学年での宿泊学習等の体験学習も順調に実施することができた。

ウ) 中高においては、高校各学年での長期休暇中の充実講座(補習・補講)、高2宿泊セミナーを夏冬春の3回実施した。また、各学年の宿泊研修、第5回目となる高2オーストラリア語学研修を実施した。国際交流活動につ

いては、6月に中国の北京師範大実験中学校の訪問、9月には教育連携協定を結んだオーストラリアからの生徒との交流活動及び生徒の家庭でのホームステイを実施した。2月には中高生対象の「登美ヶ丘講演」を実施し、心臓突然死問題について外部から招いた医学部生や医師に加えて、本校生からの発表も行った。

エ) 安全教育については、例年通り1学期に校種単位での防犯教室(奈良西警察署)、7月に幼小中高合同火災避難訓練(奈良西消防署)、6月と7月に教員対象AED救命救急講習、1月に合同地震避難訓練など、災害等に対する安全管理についての研修や訓練を実施した。

② 生徒等支援

ア) 週2回のスクールカウンセラーを配置し、教員との相談及び打ち合わせや、保護者や生徒との定期的な相談(カウンセリング)を行った。

③ 社会連携・地域貢献

ア) 毎年の恒例行事として、10月に全校生及び保護者合同の「第8回ふれあい清掃」(地域清掃)を実施した。

イ) 年間を通じて、本校正門前での登校指導を行い、地域の小中学生や高校生の通学の安全について、地域の方と協力しながら取り組んだ。

④ 環境整備

ア) P体育館及びMY体育館の照明をLED照明に付け替えた。これによって電力消費量の減少、スムーズな点灯・消灯が可能になった。

イ) Y棟PC教室のPCの入れ替えを行った。これによって最新の機種を利用することができるようになった。

⑤ 特色ある教育活動

ア) 本校の教育内容の特色である「15年(12年)一貫教育システム」の流れを示した「3+4-4-4ルートマップ」及び「各学年シラバス」を完成させ、保護者に提示した。

イ) 1学期にはP(小1~4)・M(小5~中2)・Y(中3~高4)別の体育的行事、2学期にはM・Y尚志祭(文化祭)、幼小中高合同運動会、PP運動会(P1生参加)、3学期にはPP・P尚志祭(学習発表会)など、年間を通じて異学年交流活動に取り組んだ。

ウ) 国際交流活動として、小6のハワイ宿泊学習(5月)、高2のオーストラリア語学研修(6月)などの宿泊行事のほか、5月に中国の幼稚園関係者

の訪問（幼稚園）、6月に中国の北京師範大実験中学校の訪問（高校）、モンゴル子ども宮殿音楽使節の訪問（小学校）を受け入れ、9月にはオーストラリアの連携校からのホームステイ受入などを行った。

エ) キャリア教育として、小学校での地域の方々による講演会のほか、中3(Y1)で9月にキャリアリサーチ（企業研究所訪問）、11月に保護者によるキャリアトーク講座（職業紹介）を実施した。

⑥ 生徒等募集

ア) 幼稚園においては、体験入園や園庭開放に加えて、「2歳児わくわくルーム」「2歳児保育」など、園内での活動を積極的に行うとともに、子育てサークルへの出前保育など園外での活動を充実させた。平成29年度の入園生は、年少41名（募集定員40名）であった。

イ) 小学校においては、例年通り校内での見学会、体験授業、テスト体験会を実施した。また、校外においても幼児教室主催による相談会や講演会に多数参加した。入試については10月のA日程入試に加えて、2月にB日程入試を実施し、入学者の獲得を図った。平成29年度の入学者は内部進学者26名、外部入学者31名、合計57名（募集定員90名）であった。

ウ) 中学校においては、前年に続いてA日程、B日程（午後入試）、C日程の3回実施した。また、英検資格者への加点、1回の受験料での複数受験、Webによる出願・発表などの工夫も行った。受験者は大きく増え、特にC日程受験者の入学者が増加した。平成29年度の入学者は174名（募集定員160名）であった。

エ) ホームページにおいて学校発信のブログに取り組み、SNSを利用して広く学校の活動内容を伝える取り組みを行った。

(6) 奈良文化幼稚園（旧 奈良文化女子短期大学附属幼稚園）

① 教育活動

ア) 創立50周年を機に、本園の教育理念である遊びを中心とした教育の重要性を再度共通理解し、焦点化し、その方向性を広く発信した。50周年記念誌として、まとめたこともその成果である。

イ) 子どもにとっての豊かな外遊び環境を整え、裸足での活動機会の増加、ゆとりある遊び時間の確保を行い、体力の向上を目指した。

ウ) 水、どろ、土という自然素材と積極的に触れ、心を開放して思い切り遊び、情緒の安定を図り、意欲ある遊びを展開した。

エ) 子どもの遊ぶ姿を観察し、発達課題を意識した「遊び込める」環境を柔軟につ

くった。

- オ) 「わんぱくの森」での子どもの遊びを発信し、保護者の理解を深めた。また、「じゃぶじゃぶ池」の見守り隊を保護者に募り、子ども達が実際に遊んでいる姿に触れ、共に考える機会を持った。
- カ) 和太鼓、茶道等、日本文化に触れ、教育活動につなげた。
- キ) 奈良文化高等学校「子ども教育コース」との交流や取り組みを図った。具体的には、秋期にさつまいもと一緒に掘り、やきいもパーティーをし、収穫から食するまでの喜びを共有した。高校生による遠足の引率も実現した。
- ク) 園庭整備に伴い、運動会を奈良文化高等学校グラウンドで実施した。内容を吟味し、子ども達が戸惑わず力を発揮できるよう工夫した。保護者の協力も得て、準備片付け等混乱もなく、スムーズな運営ができた。むしろ、広々とした場所のできたことを喜ぶ声が多く寄せられた。

②研究活動

- ア) 「豊かな遊び」について、園外研修会や園内研修会を積極的に行った。先進園に出かけ、園庭づくりの実際を学び、「わんぱくの森」づくりに活かした。園庭研修として、外部講師に本園の「わんぱくの森」を見てもらい、アドバイスをもらう機会も得た。
- イ) 「わんぱくの森」での遊びをとおして体力向上を図ることができるのか、体力測定を行った。また、裸足での活動の成果をみるため、足指測定器で足指の力を測った。足型スタンプによる土踏まず形成の経過観察も継続して行っていきたい。

③環境整備

- ア) 「わんぱくの森」第Ⅱ期園庭整備が計画通り完了し、園庭東部分に「どろんこ水舞台」ができた。全身の力を込めて大きなスコップで掘りおこす山砂コーナーやガチャポンプ、開放的な水遊びができるウォータースライダー付のプールや夏期特設のじゃぶじゃぶ池ができた。
- イ) 50周年の記念樹として、大きなケヤキの木が植栽された。また、実のなる木も植栽され、園児を取り囲むやさしい環境づくりが進んだ。

④募園児集

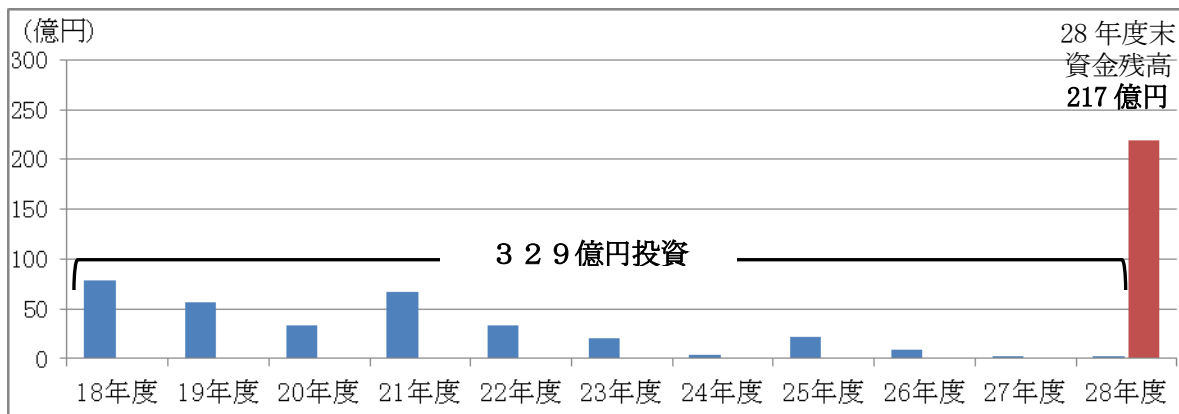
- ア) 募集定員を上回る受付となった。

IV. 財務の概要

1. 最近の投資と財務の状況

奈良学園では、各キャンパスの施設設備に対して、平成 18 年度から平成 24 年度にかけて大規模な投資を行った。その結果、学園内に耐震上問題となる建物はなくなり、施設設備面における競争力が強化された。平成 25～26 年度においても、三郷・登美ヶ丘両キャンパスの大学学部新設に伴う整備事業に取り組み、さらに充実した教育環境が整った。

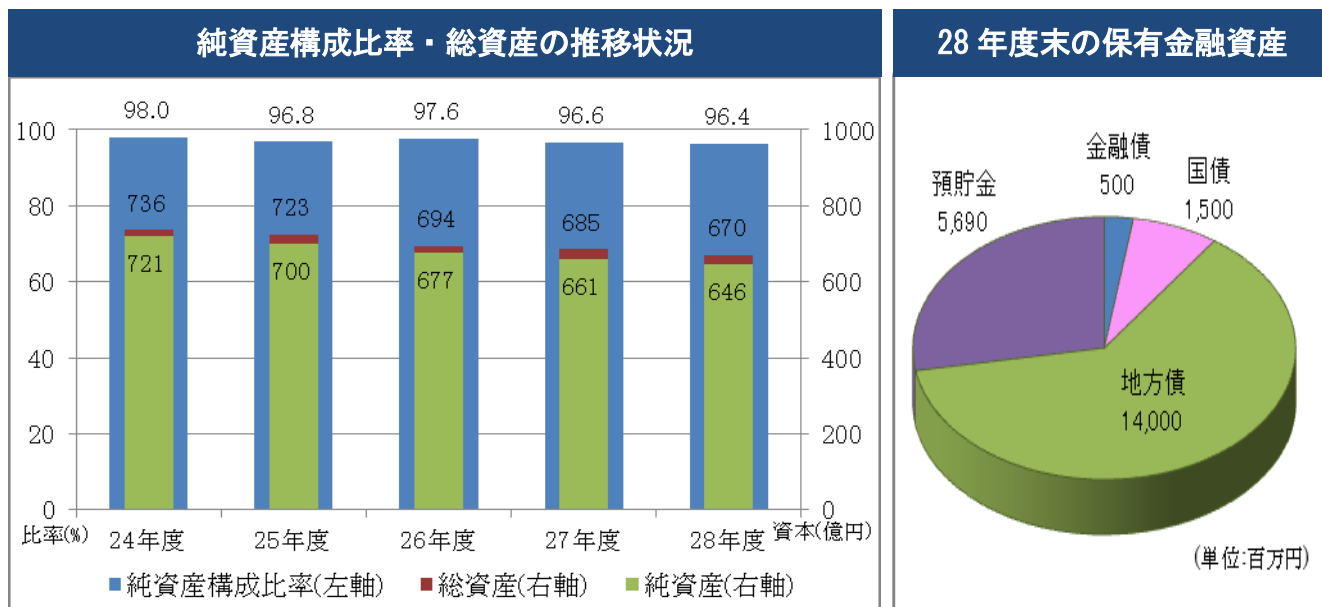
下表は、平成 18 年度から 28 年度までの投資実績をグラフ化したものである。これらの開発資金を全て自己資金で賄ったうえで、28 年度末時点においてなお、充実した資金残高を保有している。



また、財務指標をみると、奈良学園の純資産構成比率は極めて高く、学校法人としての純資産の充実ぶりを示している。

奈良学園のスケールを示す総資産は、奈良県下大学法人の中で最上位の地位にある。

下表は、24 年度以降の純資産構成比率、総資産の推移状況及び 28 年度末の保有金融資産を示したものである。



2. 平成 28 年度決算の概要

(1) 資金収支の概要

収入の部合計から前年度繰越支払資金及び資産売却収入他を減じた当年度実資金収入は、前年度比 127 百万円増加の 7,125 百万円、支出の部合計から翌年度繰越支払資金を減じた当年度実資金支出は、前年度比 418 百万円増加の 7,311 百万円となった。

当年度は、人件費支出が退職金要因により前年度比 118 百万円増加、教育研究経費支出が 50 百万円、管理経費が 97 百万円それぞれ増加したことが主要因である。

また、次年度繰越支払資金は 5,425 百万円で、資産売却収入 2,000 百万円要因により前年度に比べ 1,820 百万円増加した。

平成 28 年度 資金収支計算書

(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,225,956,000	3,188,643,593	37,312,407
手数料収入	63,445,000	61,482,906	1,962,094
寄付金収入	12,471,000	2,155,036	10,315,964
補助金収入	1,285,322,000	1,411,796,127	△126,474,127
国庫補助金収入	260,762,000	327,204,000	△66,442,000
地方公共団体補助金収入	1,024,358,000	1,084,592,127	△60,234,127
その他補助金収入	202,000	0	202,000
資産売却収入	2,000,000,000	2,000,000,000	0
付随事業・収益事業収入	107,043,000	106,427,927	615,073
受取利息・配当金収入	147,551,000	146,088,319	1,462,681
雑収入	209,051,000	248,565,333	△39,514,333
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	433,070,000	453,979,750	△20,909,750
その他の収入	1,903,042,000	2,200,150,437	△297,108,437
資金収入調整勘定	△631,518,000	△688,005,736	56,487,736
前年度繰越支払資金	3,605,355,947	3,605,355,947	
収入の部合計	12,360,788,947	12,736,639,639	△375,850,692

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	4,306,885,000	4,131,214,272	175,670,728
教育研究経費支出	1,117,223,000	1,017,539,272	99,683,728
管理経費支出	509,420,000	487,469,270	21,950,730
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	72,291,000	61,322,416	10,968,584
設備関係支出	155,293,000	67,389,247	87,903,753
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	1,972,108,000	2,108,859,289	△136,751,289
[予備費]	(0) 20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△270,948,000	△562,370,794	291,422,794
翌年度繰越支払資金	4,478,516,947	5,425,216,667	△946,699,720
支出の部合計	12,360,788,947	12,736,639,639	△375,850,692

(2) 事業活動収支の概要

当年度事業活動収入は5,094百万円で、事業活動支出は6,625百万円となった。
 これにより基本金組入前当年度収支差額は1,530百万円の支出超過となった。支出超過の主要因は、近年の施設設備充実に向けての大規模投資により、減価償却資産額が高まり、減価償却額が1,037百万円にまで高騰したことによる。なお、当年度の基本金組入額は74百万円となった。

平成28年度 事業活動収支計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位：円)

科 目		予 算	決 算	差 異
経常 収支	学生生徒等納付金	3,225,956,000	3,188,643,593	37,312,407
	手数料	63,445,000	61,482,906	1,962,094
	寄付金	10,730,000	1,757,036	8,972,964
	経常費等補助金	1,285,322,000	1,403,233,127	△117,911,127
	国庫補助金	260,762,000	318,641,000	△57,879,000
	地方公共団体補助金	1,024,358,000	1,084,592,127	△60,234,127
	その他補助金	202,000	0	202,000
	付随事業収入	107,043,000	106,427,927	615,073
	雑収入	141,377,000	169,894,963	△28,517,963
	教育活動収入計	4,833,873,000	4,931,439,552	△97,566,552
	人件費	4,368,629,000	4,040,873,292	327,755,708
	教育研究経費	2,078,287,000	1,977,111,005	101,175,995
	管理経費	604,110,000	544,090,122	60,019,878
	徴収不能額等	3,361,000	3,572,541	△211,541
	教育活動支出計	7,054,387,000	6,565,646,960	488,740,040
	教育活動収支差額	△2,220,514,000	△1,634,207,408	△586,306,592
	教育活動外収入計	147,551,000	146,088,319	1,462,681
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	147,551,000	146,088,319	1,462,681
経常収支差額	△2,072,963,000	△1,488,119,089	△584,843,911	
特別 収支	特別収入計	2,181,000	16,876,402	△14,695,402
	特別支出計	9,195,000	59,225,330	△50,030,330
	特別収支差額	△7,014,000	△42,348,928	35,334,928
〔予備費〕		(0)		
		20,000,000		20,000,000
基本金組入前当年度収支差額		△2,099,977,000	△1,530,468,017	△569,508,983
基本金組入額合計		△212,416,000	△74,220,367	△138,195,633
当年度収支差額		△2,312,393,000	△1,604,688,384	△707,704,616
前年度繰越収支差額		△1,947,496,858	△1,947,496,858	0
基本金取崩額		8,000,000	32,719,252	△24,719,252
翌年度繰越収支差額		△4,251,889,858	△3,519,465,990	△732,423,868

(参考)

事業活動収入計	4,983,605,000	5,094,404,273	△110,799,273
事業活動支出計	7,063,582,000	6,624,872,290	438,709,710

(3) 貸借対照表の概要

当年度末の資産総額は67,034百万円で、前年度末に比べ1,429百万円の減少となった。有形固定資産は、減価償却を主要因として938百万円減少した。特定資産は6百万円減少、その他の固定資産は1,501百万円減少となり、固定資産合計では2,445百万円の減少となった。流動資産合計は、現金預金残高の増加により1,017百万円増加した。

負債及び純資産では、負債の部合計が2,417百万円で前年度末に比べ102百万円増加した。また、基本金及び翌年度繰越収支差額の合計である純資産は前年度末比1,530百万円減少の64,617百万円となった。

平成28年度 貸借対照表
(平成29年3月31日)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	59,845,601,586	62,290,766,772	△2,445,165,186
有形固定資産	45,007,667,155	45,945,258,507	△937,591,352
土地	22,500,690,451	22,500,690,451	0
建物	18,927,571,778	19,535,773,518	△608,201,740
その他の有形固定資産	3,579,404,926	3,908,794,538	△329,389,612
特定資産	11,320,269,811	11,326,730,371	△6,460,560
その他の固定資産	3,517,664,620	5,018,777,894	△1,501,113,274
流動資産	7,188,130,166	6,171,612,077	1,016,518,089
現金預金	5,425,216,667	3,605,355,947	1,819,860,720
その他の流動資産	1,762,913,499	2,566,256,130	△803,342,631
資産の部合計	67,033,731,752	68,462,378,849	△1,428,647,097
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	998,097,953	1,010,017,339	△11,919,386
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	998,097,953	1,010,017,339	△11,919,386
流動負債	1,418,899,013	1,305,158,707	113,740,306
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	1,418,899,013	1,305,158,707	113,740,306
負債の部合計	2,416,996,966	2,315,176,046	101,820,920
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	56,451,522,056	56,370,841,129	80,680,927
第2号基本金	260,269,811	266,730,371	△6,460,560
第3号基本金	11,000,000,000	11,000,000,000	0
第4号基本金	424,408,909	457,128,161	△32,719,252
翌年度繰越収支差額	△3,519,465,990	△1,947,496,858	△1,571,969,132
純資産の部合計	64,616,734,786	66,147,202,803	△1,530,468,017
	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、純資産の部合計	67,033,731,752	68,462,378,849	△1,428,647,097

(4) 平成28年度 財産目録(概要)

財 産 目 録

I 資産総額	67,033,731,752 円
内 基本財産	45,017,131,775 円
運用財産	22,016,599,977 円
収益事業用財産	0 円
II 負債総額	2,416,996,966 円
III 純資産	64,616,734,786 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	476,041.17 m ² 22,500,690,451 円
建物	122,548.06 m ² 18,927,571,778 円
図書	399,832 冊 4,229 点 1,266,859,394 円
教具・校具・備品	40,597 点 822,524,569 円
その他	1,499,485,582 円
2 運用財産	
現金預金	5,425,216,667 円
その他	16,591,383,310 円
3 収益事業用財産	0 円
資 産 総 額	67,033,731,752 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	0 円
その他	998,097,953 円
2 流動負債	
短期借入金	0 円
その他	1,418,899,013 円
負 債 総 額	2,416,996,966 円
純資産 (資産総額－負債総額)	64,616,734,786 円

監査報告書

平成 29 年 5 月 25 日

学校法人奈良学園
理 事 会 御中
評 議 員 会 御中

学校法人奈良学園

常勤監事 松田 親典 

監 事 村田 智之 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項に基づく監査報告を行うため、学校法人奈良学園の寄附行為第 10 条の規定に従い、学校法人奈良学園の平成 28 年度(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、理事等から業務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、会計監査人と連携して学校法人の業務及び財産の状況を監査した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はなく、計算書類は平成 28 年度の収支の状況及び平成 28 年度末の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

以上